

大黒島で暮らしている海鳥って、どんな鳥？

〜厚岸湖・別寒辺牛湿原学術奨励補助金を利用した研究を紹介します

●問い合わせ／水鳥観察館 ☎52—5988

コシジロウミツバメですが、その要因を知るためにも、行動範囲の特定は重要です。

コシジロウミツバメはどんな場所に巣を作る？

大黒島の中にもさまざまな生息環境があります。それでは、コシジロウミツバメはどのような環境に好んで巣穴を作るのでしょうか？

今回の調査で、根が複雑で頑丈な巣穴を作ることができるイネ科植物が多く生えている場所に、巣穴が多いことがわかりました。

彼らもみなさんと同じように、頑丈で大きな家に住みたいのかもしれません。

人工巣を埋めました！

私たちは、コシジロウミツバメの保護を目的として、人工巣を埋めています。令和3年に埋

町では、厚岸湖・別寒辺牛湿原や、その他厚岸町内の自然環境などに関わる学術資料の蓄積を図るため、専門知識を持った学生や研究者の人が行う学術研究を支援する補助金の制度があります。

今回は、令和3年度に補助を行った7件の研究の中から、筑波大学行動生態学研究室が大黒島で暮らす海鳥について調べたものの一部を紹介します。

コシジロウミツバメとウトウの生態

●コシジロウミツバメ

全長約20センチメートルで、世界的に個体数が減少していますが、大黒島では推定30万つがいが増殖しています。

▽つがい1動物のオスとメスの夫婦のこと

●ウトウ

全長約37センチメートルで、くちばしの付け根の突起が特徴。イカナゴなどの小魚やオキアミ、

▼記録計装着図



コシジロウミツバメは住んでいる巣穴を飛び立って1日から数日で遠くの海に行き、そこで餌を取り、巣穴に帰って、ひなに餌を与えます。現在個体数が減少傾向にある

めた人工巣の一部をコシジロウミツバメが利用していることが確認されました！

利用状況の確認や、人工巣の手入れを、継続的に行うことで、コシジロウミツバメの保護につながります。

ウトウのひなはいつ巣立ちをするの？

ウトウの巣立ちひなはまだ上手に飛ぶことができません。巣穴から海までは歩いていきます。そのため巣立ち中は、カモメ類などの捕食者に襲われる可能性があります。

ウトウのひなが巣立ちを成功させるためには、捕食者に襲われにくいタイミングで巣立つことが重要だと考えられ、どのよ

この補助金の趣旨と使い道

厚岸湖・別寒辺牛湿原は、約8300畝の広さを誇り、5277畝がラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）の登録湿地に認定されています。

湿原は、水質の浄化や保水・洪水調整機能を持つほか、野生生物の生息地、漁業資源の形成

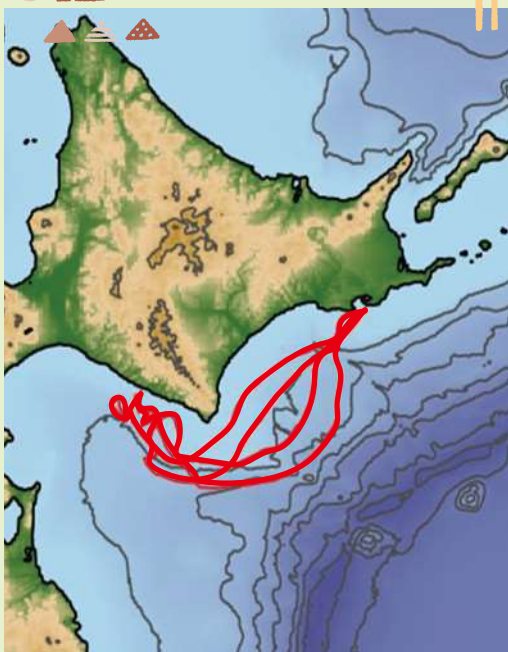
この補助金の詳細や、ほかの研究結果などは、水鳥観察館ホームページをご覧ください



にも大きな役割をはたしているといわれ、町民生活に計り知れない恩恵をもたらしています。

これから湿原を次世代に引き継ぐことが町にとって重要な課題で、湿地やその周辺環境の学術調査が欠かせません。

そこで、この分野の専門的知識を持った学生や研究者の学術研究を支援し、ネットワークを広げるなかで基礎的学術資料の蓄積を図ろうとするものです。



▲記録計により明らかになったコシジロウミツバメが餌を取る場所



▲人工巣を利用するコシジロウミツバメ



▲コシジロウミツバメ



▲木に登り、生息環境を観察の様子



▲ウトウ

身近な海の世界 —厚岸の海鳥について考える—

最近の調査で分かってきた、厚岸町の大黒島で繁殖する海鳥の生態や知られざる能力、直面する脅威について、大黒自然研究会役員の3人の専門家と、平成8年から大黒島調査に関わる渋谷水鳥観察館長が、分かりやすく解説します。ぜひお越しください。

- 日時
12月18日(日)
13時から14時30分
- 場所
厚岸情報館 2階視聴覚室
- 主催
大黒自然研究会
- 申し込み
不要
- 問い合わせ
水鳥観察館 ☎52—5988